

# 日本物理学会物理学史資料委員会ニュース

No. 2

編集・発行 日本物理学会物理学史資料委員会

2020年3月10日

一般社団法人 日本物理学会 物理学史資料委員会では、年3~4回の委員会議において、主として日本国内の物理学史資料の保管・収集などに関して情報交換を行っています。『日本物理学会物理学史資料委員会ニュース』は、その情報の一部をウェブ上で紹介するために刊行されています。

正確な内容をお届けするよう心がけますが、同委員会の委員の報告をもとに速報性を重視した構成とするため、情報が十分でない可能性があります。詳細については、関連する機関等に別途ご確認いただけますようお願い申し上げます。

## 1. 山川健次郎旧蔵『物理学訳語会記事』について

板倉聖宣・中村邦光「力学に関する基本的な術語の形成過程」(『科学史研究』、1980年掲載)の中で、山川健次郎による「物理学訳語会」の記録が参照されています。同論文には国立科学博物館(以下、科博)の木村東作氏より複製させてもらったと書かれていたことから、科博所属の有賀委員に館外の研究者から問い合わせが寄せられました。調査の結果、科博の所蔵資料に該当するものは確認できず、木村氏が個人的にコピーを所有していたものと思われまふ。ただし、この確認の過程で以下のことが判明しました。

まず、本資料と見られるものが、国立科学博物館で開催された「数学・物理 100年の歩み展」(1977年)で展示されていたことが分かりました。この展示は、日本数学会と日本物理学会の創立100周年を記念して開かれたもので、木村氏はこの展示に関わっています。科博に残っていた展示の記録資料によると、展示品の中に、「字書編纂経過を伝える記録(菊池大麓記) 第1巻、第3巻 2冊」があります。キャプションでは、この資料は「三木忠夫氏出品」となっており、展示終了後は所有者に返却されたようです。

次に、所有者である三木忠夫氏自身が本資料について記した文献が存在します(「物理学訳語事始」、『日本物理学会誌』、1973年掲載)。これによると、本資料は「2冊の和綴本」で、「物理学訳語会記事」の表題を持ち、「第一および第三で、第二は欠けている」とされています。また、本資料は山川健次郎の遺品であるとも書かれています。

三木氏が山川健次郎の遺品を所有していた理由は、夫人の教子氏が山川の孫だったからでしょう。この人物関係は、折田悦郎「初代総長山川健次郎関係資料の寄贈について」(『九大広報』46号、2006年7月掲載)の記述から判明しました。この記事によると、三木教子氏のもとにあった山川健次郎関係資料が九州大学文書館に寄贈されており、その内容は「蔵書や書状、写真、講演会のレコード盤等」となっています。記事には資料リストも付されて

いるものの、その中に「物理学訳語会記事」は含まれていません。

他方で、最初に問い合わせをしてこられた研究者（谷卓生氏）が各方面に照会をされた結果、少なくとも板倉氏（故人）は本資料のコピーを所有しており、そこからさらにコピーしたものを別の研究者が現在も所有していることが分かりました。谷氏がまとめられた論考「VR=バーチャルリアリティーは、"仮想"現実か」（『放送研究と調査』2020年1月号掲載）には、このコピーの画像が掲載されています。

現時点で、原本の所在は判明していません。場合によっては、このコピーを一次資料として保存することを検討すべきではないかと思われます。（有賀暢迪委員）

## **2. 2019年度 自然科学系アーカイブズ研究会が開催されました（終了）**

2019年度 第2回 自然科学系アーカイブズ研究会が、2019年12月18日・19日、自然科学研究機構・核融合科学研究所（岐阜県土岐市下石町 322-6）において開催されました。

本委員会の小長谷大介委員長が湯川記念館史料室に関する発表を行い、高岩義信委員が総合討論の司会を務めました。

詳細については下記をご覧ください。

<https://workshop.nifs.ac.jp/2019archives2/>

## **3. 本委員会「物理遺産の検討」グループの活動の成果が『日本物理学会誌』に掲載されました**

本委員会の「物理遺産の検討」グループが、日本において物理遺産を設けうるか否かを問いつつ調査・検討を重ねてきた成果が、下記の通り、『日本物理学会誌』に掲載されました。永平幸雄「日本物理学会認定「物理遺産」はありえるか？：日米欧7学会のWeb調査をもとに」、『日本物理学会誌』75(1)、2020年1月、40-44頁

## **4. 本委員会・名古屋大学博物館による展示「名大物理学教室の礎を築いたパイオニア」は延期となりました**

本委員会と名古屋大学博物館が企画・主催する展示「名大物理学教室の礎を築いたパイオニア」が、本学会第75回年次大会の会期にあわせて、3月17日～21日に名古屋大学博物館（名古屋大学東山キャンパス内）にて開催される予定でしたが、第75回年次大会の現地開催中止により、展示は延期されることになりました。延期の日程は未定ですが、決まり次第、日本物理学会および名古屋大学博物館等のホームページにて告知される予定です。

以上